令和6年度

環境経営レポート

対象期間 ： 令和 6 年4月～令和 7 年3月

発行年月日 ： 令和 7 年 6 月20日

Mioテクノロジー株式会社

目　　次　　ページ

1　事業概要＆認証登録範囲　1

2　環境経営方針　2

3　実施体制　3

【本社】

4　環境経営目標　4

5　環境経営目標の実績及び評価　4

6　環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容　5

7　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無　6

8　代表者による全体評価と見直し結果　7

9　環境活動の状況　8

10　環境上の緊急事態の対応に関する訓練　9

【ダイトー工場】

11　環境経営目標　10

12　環境経営目標の実績及び評価　10

13　環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容　11

14　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無　12

15　代表者による全体評価と見直し結果　13

13　環境経営活動の状況　14

14　その他の活動　15

15　環境上の緊急事態の対応に関する訓練　16

1　事業概要＆認証登録範囲

１　名称及び代表者名

Mioテクノロジー株式会社
代表取締役　　大和田　有悦

２　所在地

本社・工場　　宮城県気仙沼市松崎上赤田63番地3
松川工場　　宮城県気仙沼市松川383番地
ダイトー工場　　岩手県一関市大東町摺沢字沼田74

３　環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者　常務取締役工場長　伊東秀光　TEL：0226-23-7211
E-mail　ito@mio-tec.co.jp
担当者　藤田敦男　TEL：0226-23-7211
E-mail　fujita@mio-tec.co.jp

４　事業活動の内容

医療機器、情報機器、通信機器装置の製造

５　事業規模　令和６年度

資本金　　1000万円
製品出荷額（又は、販売額）　　4.8　　億円

項目	本社	松川工場	ダイトー工場
従業員	56名	0名	31名
延べ床面積	1744㎡	522㎡	1789㎡

６　認証登録範囲

本社・工場　宮城県気仙沼市松崎上赤田６３番地３
松川工場　　宮城県気仙沼市松川３８３番地
令和7年度　ダイトー工場　　岩手県一関市大東町摺沢字沼田74 を追加予定

７　事業経歴・営業範囲

事業経歴

平成１７年　３月　Ｍｉｏテクノロジー株式会社　創業
平成２３年　３月　東日本大震災により工場が壊滅
平成２３年１０月　気仙沼市松崎に工場移転
平成２４年　５月　気仙沼市松川に松川工場新設
平成２４年１２月　エコアクション２１認証取得
平成２７年　３月　ISO9001認証取得
令和　２年１２月　岩手県一関市にダイトー工場を開設
令和　６年１２月　ダイトー工場エコアクション認証取得

営業範囲

東北・関東・東海地区

環 境 経 営 方 針

<環境理念>

Mioテクノロジー株式会社は、プリント基板及び電子機器製品の製造工場として、お客様に満足していただける、ものづくりをするために品質、納期、コストの管理、技術力を磨き、お客様の信頼と満足度を高めます。

また、地球環境の保全が重要課題と認識し、活動によって生じる地球環境への負荷を減らすよう行動する事により地球にやさしい企業を目指す。

<環境保全への行動指針>

Mioテクノロジー株式会社の社員一人一人は「この美しい海と川、山の緑、そして澄んだ青空を守り続けます」をスローガンに掲げ、次の世代へ引き継いでいく事が基本的責務との認識にたって行動する。

1、社内における二酸化炭素・廃棄物排出量の削減に積極的に取り組み継続的な改善と環境汚染の予防に努める。

2、環境保全活動を通し、経費節減を実現する。

・電気代の節約（節電）

・廃棄物処理代の節約（リサイクルの推進）

3、国や地方自治体が定める環境関連法規制、並びに当社が同意したその他の要求事項を順守する。

4、全員に環境教育等を実施し、環境経営方針の理解と環境保全に対する意識向上に努める。

5、私たちの生活の持続性と生物多様性との関わりを理解し、積極的かつ自発的に自然との共生のた めに行動する。

6、地域の文化や慣習を尊重し、社会貢献活動(工場見学、インターンシップの受け入れ)に積極的に取り組む。

改訂日：令和6年5月1日

改訂日：令和4年12月1日

改訂日：平成30年12月1日

改訂日：平成30年5月1日

制定日：平成24年5月1日

Mioテクノロジー株式会社

代表取締役

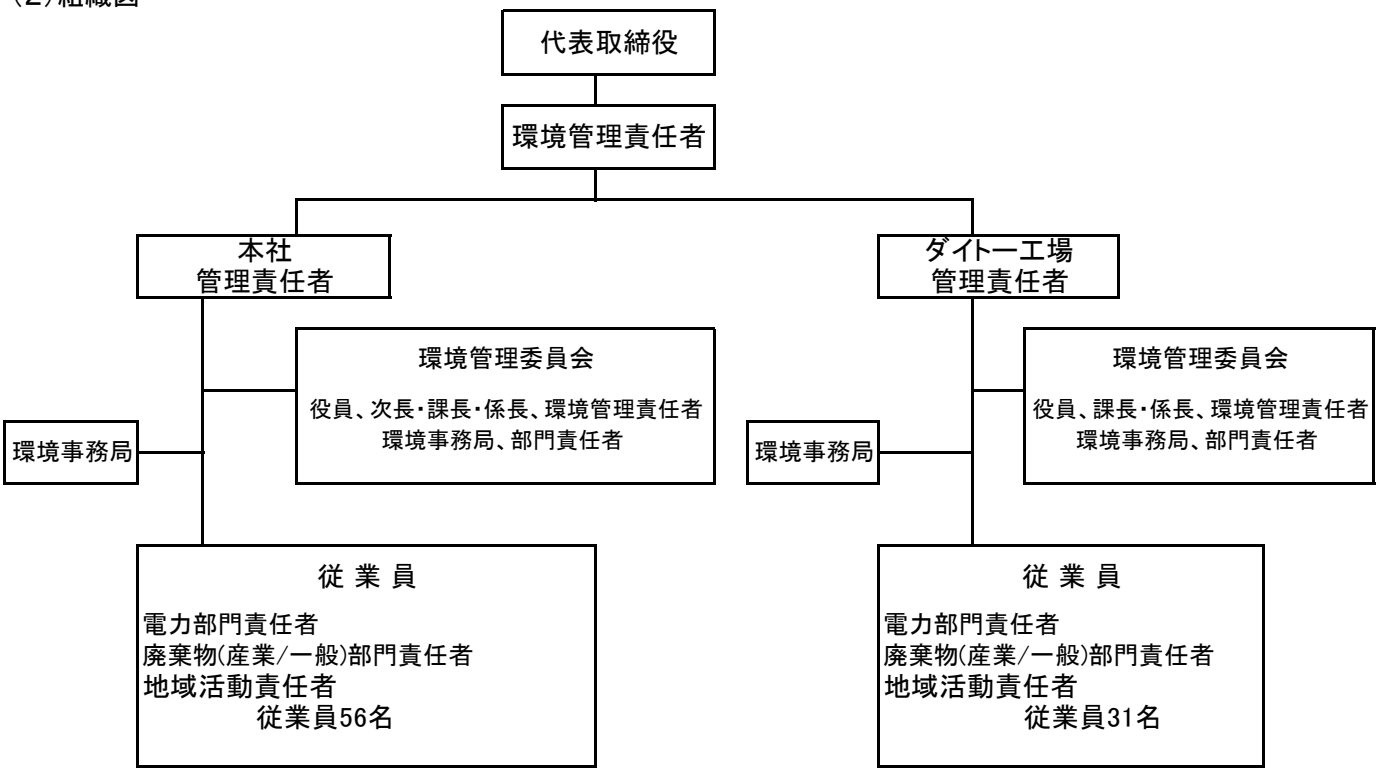
大和田　有悦

3 実施体制

（1）認証登録範囲

本社工場,松川工場,ダイトー工場(令和6年追加)

（2）組織図



（3）環境経営システム　役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	・環境経営に関する統括責任。
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。
	・環境管理責任者を任命。
	・環境方針策定、目標・活動計画の承認。
	・代表者による全体の評価と見直しを実施。
	・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
	・実施体制を構築し全従業員へ周知する。
環境管理委員会	・委員長は代表取締役とし、環境管理責任者が召集する。
	・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を部門責任者は各部門で実施する。
	・内部監査の代りに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合が有る場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。
	・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
	・新規の材料を製品に使用する際は、「富士通グループの指定化学物質リスト」で禁止化学物質が含まれていない事を確認し、使用の承認をする。
環境事務局	・環境管理責任者の補佐。
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
	・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
	・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
部門責任者	・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。
	・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。
	・従業員に対する教育訓練の実施
全社員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4 環境経営目標

当社では、令和2年度を基準年度として中期環境経営目標を設定致しました。

項目		基準年度	環境経営目標		
		(2021～203年)Ave実績	令和6年度(2024年)	令和7年度(2025年)	令和8年度(2026年)
二酸化炭素排出量	電力使用量1kWhあたりの売上額	236,564kWh	234,198Kwh	231,833Kwh	229,467Kwh
		127,116kg-CO_2	125,845KgCo2	124,574KgCo2	123,303KgCo2
		1,177.円	1,188.円	1,200.円	1,212.円
	ガソリン・軽油等の二酸化炭素の削減		用途は、決められた客先への納品業務の為、燃費データ管理とする。		
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量リサイクル比率	3,967kg	3,927KgCo2	3,888KgCo2	3,848KgCo2
		48.1%	48.6%	49.1%	49.5%
	一般廃棄物の削減	排出量が少量の為管理項目とし、データ管理とする。			
総排水量(水資源投入量)		用途が生活排水ため(30l/日・人)、節水徹底にてデータ管理とする。			
製品・サービスに関する取組不良率の低減		品質管理部門での活動			
地域貢献	インターンシップの受け入れ	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年
	地域清掃	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：ﾃﾌﾟｺｶｽﾀﾏｰｻｰﾋﾞｽ(株)(令和1年　調整後排出係数　0.533kg-CO_2/kWh)

5 環境経営目標の実績及び評価

項目		令和6年度目標	令和6年度実績	達成率(%)	環境目標の達成状況	評価
二酸化炭素排出量	電力使用量1kWhあたりの売上額	1,188.円	1,288.円	108%	達成	未達成の月も有った。近年の気候変動により、冷暖房の稼働のタイミングが早まり長くなってきている様だ。
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量リサイクル比率	48.6%	48.9%	101%	達成	何とか目標は達成したが、自社での取り組み内容から限界を感じえない。
不良率の低減	納品品質(不良件数)	36件/年	31件	116.1%	達成	手作業領域に対応する検査機の導入効果が出始めている
地域貢献	インターンシップの受け入れ	1回/年	1回	2024年7月	達成	地域清掃が実施出来なかったことは大きな反省点。次年度は確実に対応できるよう対応する。
	地域清掃	1回/年	0.回	－	未達成	

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：ﾃﾌﾟｺｶｽﾀﾏｰｻｰﾋﾞｽ(株)(令和4年　調整後排出係数　0.450kg-CO_2/kWh)

主な環境負荷等の実績

項目		単位	令和5年度	※令和6年度(参考)	令和6年度
二酸化炭素排出量	電力(本社)	kg-CO_2/年	137,259	132,398	111,781
	電力(松川)	kg-CO_2/年	3,083	3,551	2,998
	ガソリン	kg-CO_2/年	2,402	－	1,722
	軽油	kg-CO_2/年	15,170	－	13,706
	灯油	kg-CO_2/年	2,042	－	1,937
	合計(エネルギー)	kg-CO_2/年	159,956	－	132,144
産業廃棄物排出量		kg／年	4,240	－	3,800
一般廃棄物排出量		kg／年	350	－	510
総排水量(水資源投入量)		㎥／年	537	－	463
半田使用量(無鉛棒半田)		kg／年	1,177	－	745
半田使用量(共晶棒半田)		kg／年	71	－	0

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：ﾃﾌﾟｺｶｽﾀﾏｰｻｰﾋﾞｽ(株)(令和1年　調整後排出係数　0.533kg-CO_2/kWh)

６ 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

１．取組結果の評価

表５　主な環境経営活動計画の内容と取組結果

項目		環境経営活動計画	実施状況の評価	評価
二酸化炭素排出量の抑制	節電	節電（使用しない照明等はSWを切る）	休憩時間等の対応は出来ている	○
		電力会社の調査	今年度機関での変更は無かった。（変更するほどのメリットを感じなかった）	○
廃棄物の排出抑制	産業般廃棄物	ICトレイの回収 排出物の分別	活動継続中	○
	一般廃棄物	排出物の分別	活動継続中	○

○：評価できる、△：まずまず評価できる、×：評価できない

２．次年度の取組内容

（1）二酸化炭素排出量の削減

活動の継続

（2）廃棄物の排出削減

活動の継続

（3）節水（排水対策）

管理項目として対応

（4）不良率低減

品質管理部門で活動

7　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

法規・条例	遵守事項または規制基準	当社の適用及び対応	評価
フロン排出抑制法	業務用エアコン、1回/Q簡易点検の義務	簡易点検記録(3か月1回以上)の確認	○
	廃棄等実施者の引渡義務	今期は廃棄実績ありませんでした。	○
	点検記録簿の保存期間	点検記録簿を機器廃棄してから3年間保存	○
水質汚濁防止法	公共用水域への流出	外置き灯油タンク流出実績なし	○
浄化槽法	保守点検・清掃 （年一回）	記録確認 （3年間保管）	○
	定期検査 （年一回） 指定検査機関の行う水質に関する検査	検査記録確認 (3年間保管)	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)	産業廃棄物保管基準の遵守	産業廃棄物保管場所表示確認	○
	産業廃棄物の委託処理	処理業者と契約契約書の締結済	○
	マニュフェストの管理	マニフェストの交付、5年保管	○
	マニフェスト交付状況の報告	2022年6月に報告書提出済	○
	委託先の実地確認と記録の保存	優良事業者確認	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物を排出する場合は、再商品化等が確実に実施出来るように適切に引き渡す。)・特定家庭用機器：TV・洗濯機・冷蔵庫・エアコン	TV・洗濯機・冷蔵庫・エアコン等の破棄・パソコンのリサイクル化	○
グリーン購入法	物品を購入は、できる限り環境物品等を選択する	文房具・環境配慮製品	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等（PRTR法）	PRTR制度(第一種指定化学物質)	使用量1t/年未満にて対象外	○
消防法	指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外で取り扱ってはならない	灯油、アルコール等指定数量以下	○
	消火器類の点検を6ヵ月に1回以上行う	消火器使用期限の確認	○
労働安全衛生法	安全衛生教育 (雇用時・危険又は有害な業務従事者)	安全・衛生教育 (特別の教育)	○
	健康診断の実施	健康診断(10月頃実施)	○
有機溶剤中毒予防規則	作業主任者選任	使用量適用要件以下であるが選任掲示	○
	作業注意事項、区分掲示	使用量適用要件以下であるが掲示	○
気仙沼・本吉地域広域行政事務組合火災予防条例	少量危険物（指定数量1/5以上1未満）、指定可燃物の届出	指定数量以下にて保管(届出不要)	○

８ 代表者による全体評価と見直しの結果

１．環境経営方針

特になし

２．環境経営目標

評価　　１，電力

・電気代を下げる目標から、売上額に対する電力量にすることで外部要因による影響を少なくする事が出来た。また、積極的な省エネ活動を行った事が目標達成と成った。

２，廃棄物

・得意先からの支給部品から発生する梱包材が主な廃棄物となることから、リサイクル業者の開拓とゴミの分別が重要となる。今回は、積極的な分別活動を行った事が目標達成となった。

改善及び指示

特になし

３．環境活動計画及び環境経営システム

特になし

４．その他（法規制）

特になし

全体評価

今年度は、電力・廃棄物とも目標達成できたことは評価できる。特に電力については予想以上の達成率だった。、背景には気候の温暖化により冬季の暖房電力量が低かった事と単価効率が良い仕事が入ったのが要因と思われる。ただ、地域貢献活動の未達成については、実施体制を見直すこと。

代表取締役　　**大和田　有悦**

環境活動の状況

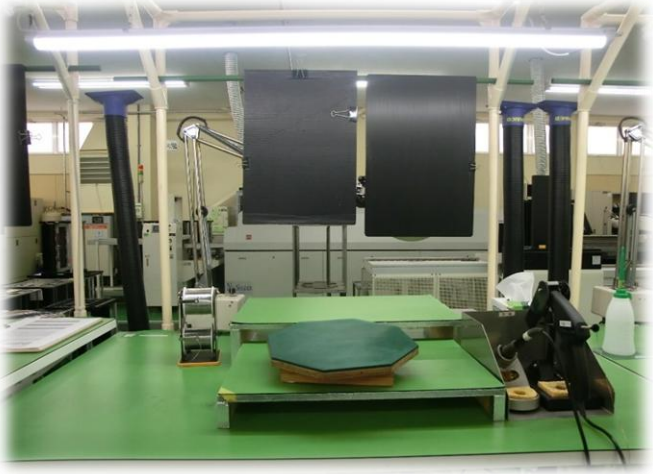
【省エネ】

夏時期
コンプレッサーの熱を外に排気し冷房効果を
高める。

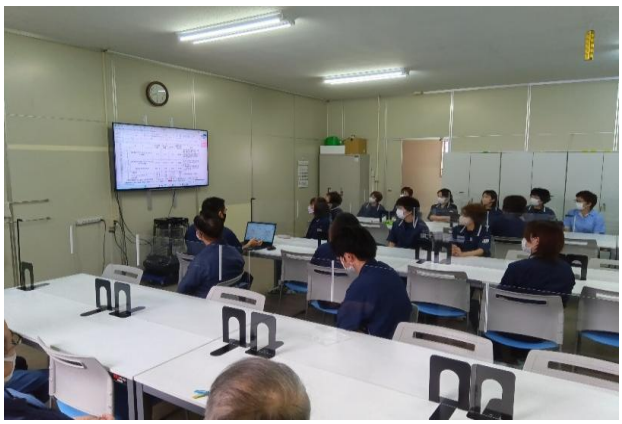
冬時期
コンプレッサーの熱を室内に利用し暖房効果を
高める。

夏用作業着としてTシャツタイプを導入

蛍光灯のLED化（作業机）



【環境教育】　2024年6月17日(月) AM8:25～AM8:40



2024年4月22日(月) 避難・初期消火訓練 (AM11:30～11:50)

火災を広げない為に下記の事を注意し訓練を行いました。

1. 避難時避難出口のドアは閉めて避難する。
2. 排煙窓は開けないで避難する。

＊消火器の取り扱い

消防署員の指導の元、消火器の取り扱い訓練実施
5本の消火器にて4回　20名参加(タイムカード順11番～)

＊消防署から

消火器を屋外で使用する場合は風上から使用して自分にかからないように注意する
屋内で使用する場合は避難路を確保して消火を行う
レバーは固いので女性や力が足りない場合は体重をかけてレバーを握るようにする
人数が多いと誰かがやってくれると思い、通報や消火が遅れてしまうことがあるので
率先して行動するように心掛けて下さい。

4 環境経営目標　(ダイトー工場)

項目		基準年度	環境経営目標		
		令和5年度(2023年)	令和6年度(2024年)	令和7年度(2025年)	令和8年度(2026年)
二酸化炭素排出量	売上高に対する電力料金(円)比率削減	170,343.0kwh	168,639.5kwh	166,936.1kwh	15,232.7kwh
		90,792.8kg-CO_2	89,884.8kg-CO_2	88,976.9kg-CO_2	88,243.6kg-CO_2
		2.073%	2.052%	2.031%	2.010%
	ガソリン・軽油等の二酸化炭素の削減	用途は、決められた客先への業務のため燃費データ管理とする。			
廃棄物排出量	売上高に対する産業廃棄物処理費用(円)比率削減	1,020.0kg	1,009.8kg	999.6kg	989.4kg
		0.0748%	0.0740%	0.0733%	0.0725%
	売上高に対する一般廃棄物処理費用(円)比率削減	772.2kg	764.4kg	756.kg	748.8kg
		0.010%	0.0098%	0.0097%	0.0096%
総排水量(水資源投入量)		生活排水のため節水徹底とし、データ管理する。(30ℓ/日・人)			
製品・サービスに関する取り組み		品質管理部門での活動			
不良率の低減					
地域貢献	工場見学	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年
	地域清掃	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：ｴﾌﾋﾞｯﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ(株)排出係数：0.45kg-CO_2/kWh

5 環境経営目標の実績及び評価　（ダイトー工場）

項目		令和6年度目標	令和6年度実績	達成率	環境目標の達成状況	評価
二酸化炭素排出量	電力料金(万円)比率・売上高(万円)比）削減	4.80%	4.85%	122.3%	達成	電力会社の変更・従業員の協力により大幅に達成できた。
廃棄物排出量	産業廃棄物処理費(万円)比率売上高(万円)比）削減	0.0010%	0.0011%	85.6%	未達成	達成できなかった。 外注からの引上げによって場所の確保で倉庫などの整理により廃棄物が増加してしまった。
廃棄物排出量	一般廃棄物(燃えるゴミ)処理費(万円)比率売上高(万円)比）削減	0.0090%	0.0128%	77.2%	未達成	
地域貢献	工場見学	1回/年	7月12日	-	達成	
	地域清掃	1回/年	1回/年	-	達成	

主な環境負荷等の実績

項目		単位	令和５年度	令和６年度	令和７年度
二酸化炭素排出量	電力(ダイトー工場)	kg-CO_2/年	90,792.82	73,508.85	
	ガソリン	kg-CO_2/年	507.55	688.76	
	軽油	kg-CO_2/年	205.99	402.14	
	灯油	kg-CO_2/年	12,833.46	11,847.42	
	合計	kg-CO_2/年	104,339.82	86,447.17	
産業廃棄物排出量		kg/年	1,020.00	1,180.00	
一般廃棄物排出量		kg/年	12,012.00	15,400.00	
総排水量		㎥/年	216.00	223.00	
はんだ使用量(無鉛はんだ)		kg/年	270.00	530.00	
はんだ使用量(有鉛はんだ)		kg/年	179.00	24.00	

6 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取り組み内容

１．取組結果の評価

主な環境経営活動計画の内容と取組結果　　**（ダイトー工場）**

項目		環境経営活動計画	実施状況の評価	評価
二酸化炭素排出量の抑制	節電	天井・作業台の照明をLEDにし、消費電力を下げる。	LED化の対応済み	○
	ガソリン代の節約	社用車1台をハイブリット車に変更	変更済み	○
廃棄物排出の抑制	産業廃棄物	排出物の分別をし、再資源化を図る。	継続中	○
	一般廃棄物	排出物の分別をし、再資源化を図る。	継続中	○

２．次年度の取り組み内容

（１）二酸化炭素排出量の削減
　　大きく削減できるところはなくなったので評価方法の見直をし、取り組んでいく。

（2）廃棄物排出量の削減
　　引き続き廃棄物の有用資源を回収し、再資源化にさらに取り組む。

（３）節水（排水対策）
　　管理項目として対応する。

（４）不良率の低減
　　品質管理部門で活動する。

7　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無 （ダイトー工場）

法規・条例	遵守事項または規制基準	当社の適応及び対応	評価
フロン排出抑制法	業務用エアコン、1回/Q簡易点検の義務	簡易点検記録 1回以上/3か月	○
	圧縮機7.5KW以上は定期点検の義務	簡易点検記録 1回以上/4か月	○
	点検記録簿の保存期間	点検記録簿を機器廃棄してから３年間保存	○
水質汚濁防止法	公共用水域への流出	外置き灯油タンク流出実績なし	○
浄化槽法	保守点検・清掃　（年一回）	記録確認 （3年間保管）	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	定期検査　（年一回） 指定検査機関の行う水質に関する検査	検査記録確認 (3年間保管)	○
	産業廃棄物版基準の遵守	産業廃棄物保管場所表示確認	○
	産業廃棄物の委託処理	処理業者と契約書の締結済み	○
	マニュフェストの管理	マニュフェストの交付、5年保管	○
	マニュフェスト交付状況の報告	電子マニュフェストにて自動報告済み	○
	委託先の実施確認と記録の保存	優良事業者確認	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物を排出する場合は、再商品化等が確実に実施出来るように適切に引き渡す。(特定家庭用機器:TV・洗濯機・冷蔵庫・エアコン)	TV・洗濯機・冷蔵庫・エアコン等の破棄・パソコンのリサイクル化	○
グリーン購入法	物品購入時はできる限り環境物品を購入する	環境配慮製品の購入	○
特定科学物質の環境への排出量の把握等(PRTR法)	PRTR制度(第一種指定科学物質)	使用量1t/未満にて対象外	○
消防法	指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外で取り扱ってはならない	灯油、アルコール等指定数量以下	○
	消火器類の点検を６ヵ月に1回以上行う	消火器使用期限の確認	○
労働安全衛生法	安全衛生教育 (雇用時・危険又は有害な業務従事者)	安全・衛生教育 (特別の教育)	○
	健康診断の実施	健康診断(8月実施)	○
有機溶剤中毒予防規則	作業主任者選任	使用量適用要件以下であるが選任掲示	○
	作業注意事項、区分掲示	使用量適用要件以下であるが掲示	○
一関市火災予防条例	少量危険物（指定数量1/5以上1未満）、指定可燃物の届出	指定数量以下にて保管(届出不要)	○

８ 代表者による全体評価と見直しの結果　（ダイトー工場）

１．環境経営方針

なし

２．環境経営目標

評価

1.電力

蛍光灯のLED化により大幅な電力の削減に達成する事ができた。
電力会社の変更も影響したと思われる。

2.廃棄物

仕事量の増加による支給部品の増加と業務移管に伴い工場の整理などで廃棄物が増加した。
そのため、達成できなかった。

改善及び指示

・廃棄物のリサイクル業者を探すこと。
・電力と廃棄物に分けた体制を検討すること。

3.環境活動計画及び環境経営システム

引き続き環境経営目標を達成できるよう取り組む。

４．その他

なし

全体評価

エコアクション２１としての初年度の活動となりました。積極的な取組により電力については達成率125%と大きな成果が出せました。
反面、廃棄物に関しては、倉庫の整理と外注からの業務移管に伴い廃棄物が多く排出され未達成となりました。

環境経営活動の状況

【二酸化炭素排出量の抑制】

①天井・作業台のLED化

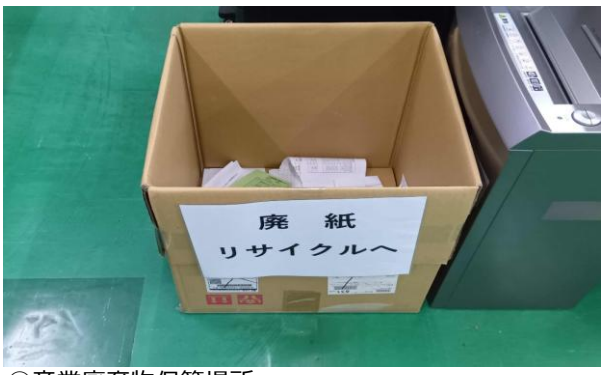
②社用車をハイブリッド車に変更

【廃棄物排出の抑制】

①-1ゴミの分別化

①-２ごみの分別化(資源ゴミ等置き場の設置)

①-3リサイクル紙置き場の設置



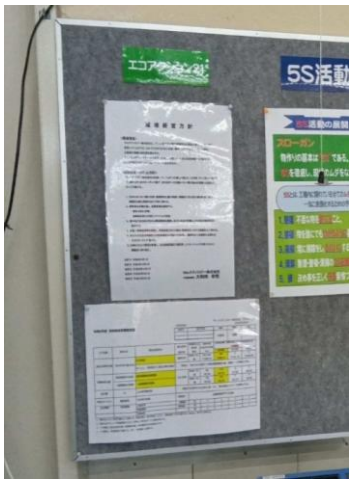
②はんだ屑置き場(有用資源)

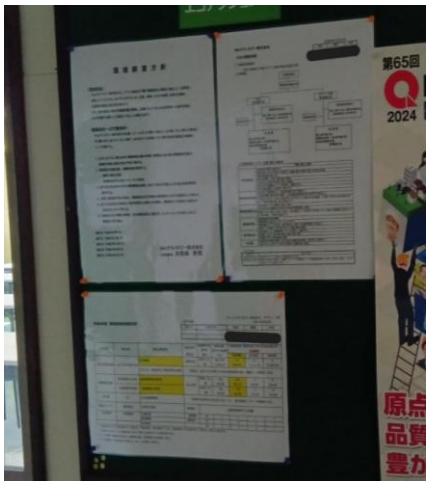
③産業廃棄物保管場所

環境経営活動の状況

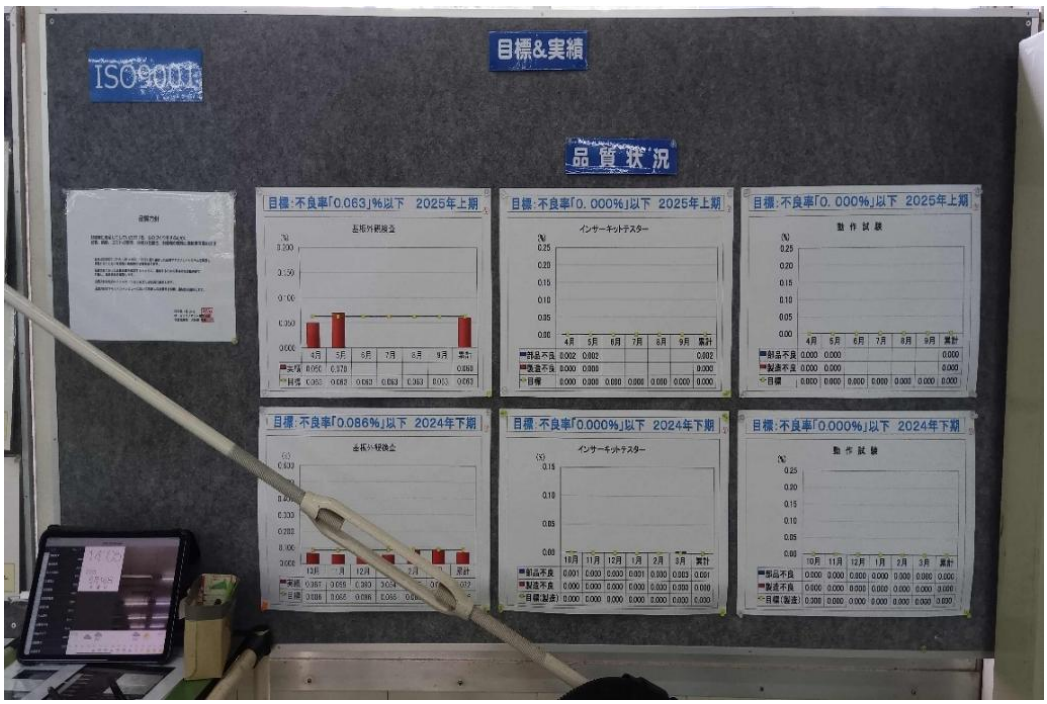
【その他の活動】

①工場入口、食堂入口の掲示板にエコアクションの目標と実績の掲示

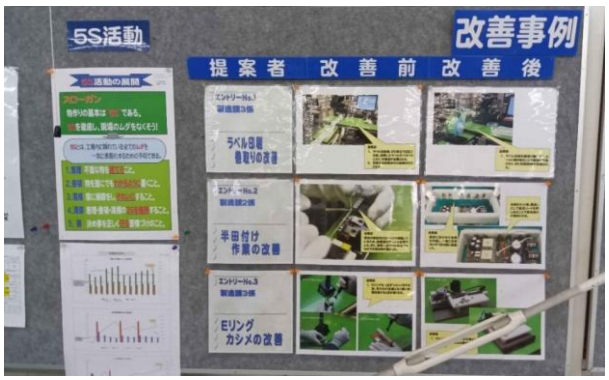


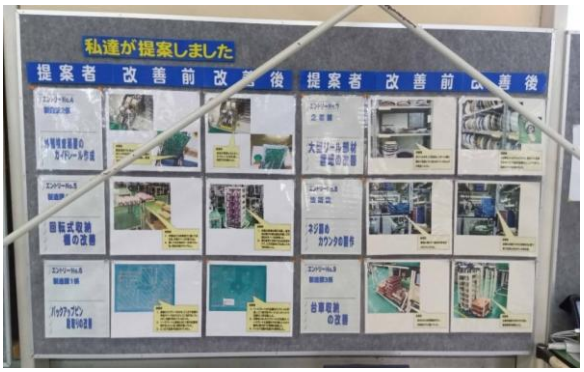


②月毎の品質状況の掲示



③作業改善提案





環境活動の状況

【避難訓練】　　12月11日 避難訓練・初期消火訓練を行いました。

1.非常ベルが鳴り、最寄りの非常口から素早く非難する。

2.点呼の確認後、古川ポンプ様より避難時の心得、消火器の使い方のご指導を受けました。

3.消化班と有志による初期消火作業訓練を行いました。

4.最後に講評をいただきました。

避難訓練の目的について、災害が起きたときどのような動きをするのか、スムーズに避難できるか。
災害時には、1秒遅れることが命取りです。久しぶりの訓練と聞いていましたが、スムーズに避難できたと思います。
避難訓練をすることによって実際の災害時に素早く対応することができるようになると思われます。